

女子審判トレセン 旭川地区研修会

- 日 時 : 2025年3月9日(日) 8:50~13:00
- スタッフ : 渡部 学 (サッカー2級審判インストラクター・女子部)
大石かおり (サッカー2級審判インストラクター・女子部)
- 参加者 : 旭川実業高校女子サッカー部 12名
旭川南高校女子サッカー部 13名



5R ~一歩一歩着実に~

■日 程	
8:50	開会
9:00	講義I 北海道の女子審判員の活動について
10:00	講義II フィールドを描こう オフサイド等の競技規則
11:30	副審実技
13:00	閉会



3名のアクティブ審判員から審判員を目指したきっかけなどを動画で登場してもらいました。



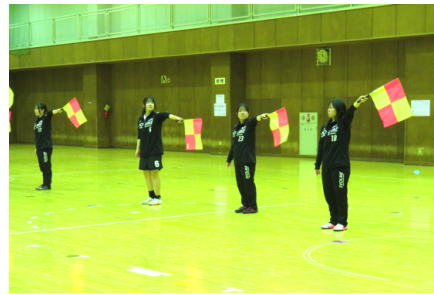
競技のフィールドを書いてもらいました。意外とバランスが難しい・・・。



オフサイドなどの基本的な競技規則を再確認しました。



旗を持って、様々なシグナルを確認しました。腕と旗がまっすぐになるためのアドバイスも受けました。その後、紅白戦で副審を担当しましたが、ボールがタッチラインを出た時にどちらに旗をあげるか、苦労していました。



■参加者のコメント

旭川実業高校 2年生

審判のイメージは、自分的には誤審があって文句を言われたりすることが多いと思っていて、良いイメージはありませんでした。研修会に参加してして、試合で良いプレーを間近で見ることができたり、自分自身のジャッジでオフサイドをとれたりなど、嬉しい場面も非常に多いことが分かりました。私は公式戦で一度副審をやったことがありますが、自分の判断に自信を持って旗を上げたりできたので、次にやるときは今回の研修で学んだことも含めて楽しみながらやりたいと思います！そしてあまり分からなかった審判のありがたみも感じることもできたので、感謝の気持ちを忘れずプレーしていきたいです。

旭川実業高校 1年生

最初はレフェリーは難しくて、練習試合でもあまりやりたくないと思っていたけれど、今日の研修会を受けて、試合を終えた後の達成感や一番近くで試合を見ることができるといいところをたくさん知ることができました。最後に実際にやってみて、今までやった中で一番楽しくて、レフェリーに対する印象が楽しいやっこいいに変わりました。とても楽しくて、知識も身につけることができました。ありがとうございました。

旭川南高校 2年生

サッカーのルールは年々変わっているんだと知りました。細かいルールは知らなかったこともあって、いい学びになりました。オフサイドが一番難しいと感じました。スローイン・ゴールキック・コーナーキックはオフサイドがないことが分かり、曖昧だったことが分かって良かったです。これを踏まえて、試合の時に意識して動きたいと思いました。審判は、難しいとか、硬いイメージが強かったけれど、かっこいいというイメージも増えました。副審をやってみて、後ろから2番目の人についていくことを意識すると、どちらが出したボールなのかが分からなくて大変でした。選手以外でサッカーに関わることでできる審判は、一番近くで試合もみることができたり、かっこよかったり、プラスイメージも知ることができてよかったです。

旭川南高校 1年生

1年間サッカーをやってきたのに、知らないルールばかりで、これから知らないまま試合でファウルしてしまうかもしれないと不安になったので、きちんとルールを覚えて試合したいと思いました。夏に試合をした時、たまに女性の審判を見かけたことがあって、カッコいいなと思っていただけ、北海道で女性の審判は少ないことを知って驚いたし、自分もカッコいい審判になりたいと思いました。副審を実際にやってみて、プレーに見入ってしまったたり、パニックになったりして、冷静に判断するのが難しかったけれど、とても楽しかったので、また機会があればやってみたく思います。

■ 渡部学サッカー2級審判インストラクター（旭川IFA審判委員長）より

旭川地区では3回目となる審判トレセンが開催され、旭川実業高校女子サッカー一部、旭川南高校女子サッカー一部の2チームの部員に参加していただきました。道内各地で活躍するサッカー女子審判員のコメントを聞いたり、活動の状況や審判員として活動する魅力、競技規則の理解に関する講義、オフサイドを中心とした副審に必要なフラッグテクニック、室内での展開の切り替わりが早い試合でしたが実際に副審を全員が経験する実技の構成でした。

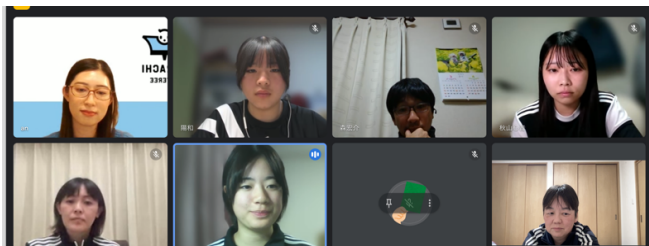
講師として参加させていただき感じた事は、終始参加者の笑顔と賑やかな雰囲気の中で研修がおこなわれた事や、積極的に発言してくれる参加者が多かったのもあったからか、楽しむ事の大切さや、ミスする事を気にして発言ができなかったりする事が如何に勿体ない事なのかという点や、普段は選手としてサッカーに触れている参加者にとって審判としての視点からサッカーに関わる事が必ず生きてくるという部分です。少子化に伴い競技人口が減り、必然的に審判員の数も減っていると日々感じていますが、ユース年代から審判としてサッカーとの関わりを持つ機会を増やし、その中から審判として生涯スポーツのサッカーと関わる人材を増やすのは私たちがしなければいけない重要な部分だと改めて思いました。このような取り組みを全道規模で増やしていけたら嬉しく思います。

最後になりましたが、参加してくれた旭川実業高校、旭川南高校の両チームの選手、顧問の土岐先生、小野先生にはスケジュール調整など、お世話になり本当にありがとうございました。

web研修会(全国研修報告会)

- 日 時 : 2025年3月11日(火) 20:00~21:30
- ス タ ッ プ : 大石かおり(サッカー2級審判インストラクター・女子部)
森 宏介(サッカー2級審判インストラクター)
- 報 告 者 : 長浜 杏名・土屋 花・秋山 心音(2級審判員)
オホーツク地区ユース審判員(3級審判員)
- 参 加 者 : 稲葉 里美(1級審判員)
- 内 容 : 全国研修に参加した4名から、北海道の女子審判員に共有したい事象等の共有


2025年度から女子部に加わっていただく森さんに、一足早く参加していただきました。
これからよろしく願っています！



報告者には、自分で資料を作ってもらいました。

試合での学び

- 事象
ロッカーアウトの際、笛でチームを呼んだが控室からなかなか選手が出てこなかった。
- 対応
控室がピッチから少し距離があったためあまり聞こえていないことが分かったため実際に控室の前までいき時間になったことを伝えに行った。その際にしっかりと監督さんにも時間を伝えることで選手全体に伝わるように対応を行った。
- PK戦になった際の対応
ゴールの決め方
→日差しの関係性
- 観客の方々への対応
→ゴール裏について



■ 参加者のコメント

オホーツク地区ユース3級審判員

今回の研修会では、全国研修の報告を聞きました。色々なカテゴリーの研修の話聞くことができ、今まで見たことがない事例を共有や対応方法を詳しく説明していただけて、それぞれで起こる事象が違うため、とても学びになりました。また研修に向かうまでの道中に、困ったことなども教えていただき、今後自分が研修会に行く時の参考にできました。ここで得た知識を十分に活用し、審判活動を頑張りたいと思います。

■ 森宏介サッカー2級審判インストラクターより

先日、初めて女子の審判研修会に参加させていただきました。全国研修会の参加報告ということで女子審判員の皆様方が精力的に活動され真摯な態度で審判活動に励んでいる様子を聞かせていただきました。「審判員として」、というより「人間性の向上」「人として様々なことに気づくこと」など奥深い内容に私自身が一番勉強させていただけたと感じています。

来シーズンより研修会を担当させていただくことになりました。良い研修会を開催すると同時に私自身の人間性を向上し審判員から信頼されるインストラクターを目指して活動していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。